

令和6年度認定

計画名	53 香川県立ミュージアムを中核とした文化観光推進拠点計画
-----	-------------------------------

①計画目標の達成状況

目標項目名（単位）	R6			R7			R8			R9			R10		
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
①ミュージアム展覧会観覧者数（人）	75,000	85,169	114%	103,000	62,021	60%	109,000			116,000			125,000		
②ミュージアム展覧会観覧者数（国外）（人）	750	1,000	133%	1,500	1,908	127%	2,100			2,900			3,700		
③来館者の満足度（％）	41	42.3	103%	44	41.1	93%	47			50			53		
④来館者の満足度（国外）（％）	56	68.4	122%	58	48.5	84%	60			62			64		
⑤1階「よりどころ」来訪者数（延べ人数）（人）	2,000	15,359	768%	70,000	66,178	95%	88,000			110,000			136,000		
⑥ミュージアムショップの売上げ（千円）	3,000	6,005	200%	4,000	3,644	91%	4,500			5,800			7,200		

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

（分析） ・令和6年度（85,169人）と比較して、休館期間（1/19～2/20）もあり観覧者数は全般的に減少した。年4回の特別展のうち、夏～秋の特別展で現代アートの展覧会を実施したが、これまであまり扱ってこなかったジャンルであったためカリピーター層の来館につながらなかった。特別展全体での観覧者数は40%減少、常設展では16%減少したが、4月から県外の65歳以上の来館者が有料になったことにより、有料観覧者数は令和6年度より62人増、観覧者に占める割合は、7.5%増加した。 ・地図情報アプリGoogleで、開館・休館の情報、展覧会情報等を引き続き掲載したこと、Instagramでの投稿を引き続き実施したこと、多言語WEBサイトに展覧会や施設の情報を引き続き掲載したこと、瀬戸内国際芸術祭の開催年度であり、芸術祭のWEBサイトやSNSでも特別展の情報発信ができたことなどにより、国外の観覧者数は増加し、目標値を上回った。 ・来館者の満足度（全体）は、前年度の来館者アンケートに比べて、夏～秋の特別展の「とても良い」の割合が6.1%減少しており、全体では1.2%減少した。リニューアル後の空海室については、満足度の高さがかがえるコメントが見られた。 ・来館者の満足度（国外）は、夏～秋の特別展の「とても良い」の割合が14.3%と低く、また常設展の「非常に良かった」も43.4%に留まり、多言語の解説を求める意見が多く見られた。 ・1階「よりどころ」の来訪者数は、来訪者を計測するセンサーの調達に時間がかかり、9月まで設置できていなかったことにより、R7は目標値に到達しなかった。 ・令和6年度は、春に皇居三の丸尚蔵館の特別展を開催し、同館の関連商品を多く仕入れて販売することができたが、令和7年度は春・夏～秋ともに自主企画の特別展だったため、図録以外にショップで扱える商品が少なく、特別展会期中の売り上げが減少した。 （評価） ・国外の来館者数を除いて、いずれも目標を達成できなかった。 ・観覧者が減少した影響が各指標に波及していると考えられる。
--

③計画で取組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R6	R7	R8	R9	R10	事業類型ごとの実績額
1－①	ミュージアム1階ゲートウェイ化「行きし・いにしのよりどころ」整備事業	香川県立ミュージアム1階を文化観光の「ゲートウェイ」として整備するため、基本方針を策定	R8年度の実施設計に向けて、コーチングを受けながら、基本方針の内容を検討				7.9百万円
1－②	歴史展示室展示強化事業	－	－				
1－③	空海展示室強化事業	－	空海室の展示グラフィックパネルの更新、映像演出設備の追加、オリジナルアイコンの作成				
1－④	主要な文化資源をテーマとした展覧会実施事業	－	－				
1－⑤	デジタルコレクション充実事業	計画の主要コンテンツに関連した収蔵品の高精細デジタル撮影を実施	高精細デジタル撮影及び著作権処理を行い、新公式ホームページの名品選で公開した。				
1－⑥	ミュージアム1階ゲートウェイ化「行きし・いにしのよりどころ」来訪促進事業	－	－				2.3百万円
2－①	展示解説多言語対応推進事業	常設展示室の固定の展示部分についての解説シート、パネル、キャプションの多言語対応（英語）を実施	常設展示室・歴史展示室・多目的室の主要なパネルの多言語解説（4言語）を作成				
2－②	デジタルコレクション活用事業	－	「高松松平家博物図譜」を活用したARフォトフレームの作成及び運用開始				
2－③	文化資源周遊促進事業	－	－				
2－④	体験型コンテンツ充実事業	－	石垣ツアー（日本語版、完全英語版）の実施、ワークショップ「ミニチュアさぬきうどんを作ろう」の実施				5.7百万円
3－①	観光客受入環境整備事業（館内案内多言語対応）	多言語（日本語・英語の併記を基本に英語圏外の外国人にも理解しやすいピクトグラム表記）等による分かりやすい案内サインを整備	－				
3－②	交通アクセス・周遊性向上事業	空港リムジンバスの路線延伸及び路線バスのバス停設置を実施	夜間開館に合わせたシャトルバスの運行				
3－③	ナイトタイムエコノミー活性化事業	－	夜間開館及び夜間限定プログラム（ナイトコンサート・ナイトバー、プレミアムナイトツアー）の実施				
4－①	ミュージアムオリジナル商品開発・販売促進事業	－	－				
4－②	ミュージアムカフェ魅力向上事業	－	－				9.8百万円
5－①	認知度向上のための広報強化事業	施設の魅力発信のための印刷物の作成、主要駅等へのポスター掲出、多言語WEBサイトへの掲載等を実施	主要駅等へのポスター掲出、多言語ウェブサイトのカフェメニュー付着付け体験プランの掲載、SNS情報発信の指導を受けて原稿作成・投稿				
5－②	観光客に訴求力のある公式ホームページ開設事業	－	新公式ホームページの設計・開発及び運用開始				
6－①	ゲートウェイ機能付加のための整備事業	－	－				43.4百万円
6－②	展示環境改善のための整備事業	可動展示ケースのLED化改修を実施	空海室展示照明のLED化改修、展示室スポットライトのLED化を実施				
6－③	観光客受入環境整備のための整備事業	全館を対象としたWi-Fi整備を実施	－				
各年度ごとの実績額→		21.3百万円	47.8百万円				69.1百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

(分析) ・事業1－③では、空海室の解説パネルを日本語・英語併記のものに更新し、展示室入口のサインや空海の言葉が浮かび上がる演出を新たに導入し、満足度の向上につながった。 ・事業1－⑤では、計画の主要コンテンツに関する収蔵品についての高精細デジタル撮影を行い、美術作品の著作権処理も行い、新公式ホームページで名品選（デジタルアーカイブ）の公開を開始した。 ・事業2－①では、常時展示を行っている部分の主要な展示品や関わりの深い人物紹介について、4言語の解説文を作成した。ネイティブのライターへの現地説明を行い、解説文を作成したことにより、各言語圏それぞれ興味を持ちやすい観点から文章作成を行い、外国人旅行者の方の興味を引き、理解が深まる内容となった。 ・事業2－②では、オリジナルARフォトフレームを制作、運用し、子どもや若い世代にミュージアムの収蔵品に親しんでもらうコンテンツを提供できるようになった。 ・事業2－④では、観光客も参加しやすい当日申込型で、石垣ツアーやワークショップを実施し、文化資源への理解を深めることにつながった。 ・事業3－②では、夜間開館にあわせたシャトルバスの運行を実施したが、瀬戸内国際芸術祭で島から高松港に戻ってきた観光客の乗車につなげることが難しく、利用者が伸びなかった。 ・事業3－③では、瀬戸内国際芸術祭期間中の夜間開館、アルコール類を含む飲み物と軽食を提供する「ミュージアムナイトバー」やコンサートなど夜間限定プログラムを実施し、来館者層の拡大につながった。 ・事業5－①では、認知度向上のためのポスターやチラシを主要駅等へ掲出、多言語WEBサイトへの掲載等を行った。 ・事業5－②では、新公式ホームページを設計、開発、運用開始し、館の立地や、開催中の展覧会・イベント、収蔵品の魅力をわかりやすく発信できるようになった。 ・事業6－②では、空海室の照明及びスポットライトのLED化を行ったことで、作品や資料の劣化を防ぎながら多様な演出が可能となり、空海室においては没入感のある照明環境を実現することができた。 (評価) ・事業2－②、5－②、6－②においては成果物の納品が年度末近くになったため、実際の活用や満足度の向上の成果が現れるのはR8年度以降である。
--

⑤拠点施設の要件に関する取組状況

文化観光拠点施設名 要件	香川県立ミュージアム	
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	・空海室について、グラフィックパネルを日英併記のものに更新し、入口サイン・映像演出設備を新設し、展示室をより空海の実在を感じられる空間にリニューアルした。 ・1階エントランスゾーンに、香川県の文化資源について気軽に触れることのできるガイダンス機能を持った空間を創り、目で楽しめるようにするため、令和8年度の実施設計に向けて基本方針の内容について再検討を実施した。	
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	・主要な文化資源に関する収蔵品84件について高精細デジタル撮影を行った。 ・撮影したデータは、新公式ホームページの名品選（デジタルアーカイブ）で公開を開始した。 ・収蔵品のデジタルデータを活用したオリジナルARフォトフレームを制作、運用を開始した。	
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	・常時展示している歴史展示室、常設1室、常設3室（空海室）、イサム・ノグチコーナー、多目的室などの主要な展示品パネルを多言語解説を作成した（27項目、4言語/うち令和6年度に英語解説文作成を完了していた5項目は3言語）。	
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	・ミュージアムに隣接し、収蔵品との関わりも深い玉藻公園との間で、共通割引券の取扱いを引き続き実施した。 ・玉藻公園、栗林公園からの誘客を促進するため、公園側に協力を依頼し、令和8年度からサテライト展示を実施できるよう打ち合わせを行った。 ・国内外への旅行会社への情報提供やインバウンド向けガイドブックへの掲載など公益社団法人香川県観光協会等と連携したPRを実施した。	
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	・来館者アンケートを実施し、ニーズの把握や分析を行った。 ・香川県観光客動態調査報告などをもとに、観光客の動向やニーズの把握を行った。	
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	・本計画において設定したKPIに基づき、達成状況を検証した。	

⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
公益社団法人香川県観光協会	・地域における観光の状況として、「瀬戸内国際芸術祭2025」の開催や高松空港の国際線の新規路線就航などにより観光客（外国人）が増加しており、本計画による情報発信などの

⑦今後の改善の方向性

・特別展、常設展ともに観覧者数を増加させるため、より魅力的な内容の展示を企画し、タビナカの観光客に届くよう情報発信を強化する。 ・観覧者の満足度を高めるため、多言語の案内・解説を充実させる。 ・多くの観光客が訪れる栗林公園・玉藻公園との連携を強化し、ミュージアムへの誘客をはかる。 ・ミュージアム1階のゲートウェイ化については、基本方針やこれまでの検討をもとに、実施に向けた設計を行い、改修を進めていく。 ・収蔵品については、計画的にデジタル画像の撮影を行うとともに、デジタルアーカイブの充実をはかり、展示等で撮影データの積極的な活用を進めていく。 ・県内に存在する文化資源の周遊促進を図るため、共同申請者である観光協会や、文化施設などと連携し、まち歩きマップの造成等を検討する。 ・認知度向上のために、共同申請者である高松中央商店街振興組合連合会や、交通事業者などと連携し、広報媒体の設置の拡大等を図る。
--